

# ○「命の大切さを学ぶ教室」作文コンクール受賞について

昨年7月、本校で開催の「命の大切さを学ぶ教室」での講演を聞いての感想文を当該コンクールに応募した所、本校の1年生3名が11月の県大会で最優秀賞他の以下の賞を受賞しました。

最優秀賞	木村 優花
優秀賞	横山 千佳
優秀賞	高山 莉奈

なお、県代表として木村さんの作文が全国コンクールに出品され、見事に

**最優秀賞の「国務大臣・国家公安委員会委員長賞」を受賞しました。**

2月7日(土)に東京で、その表彰式が行われ、山谷えり子国家公安委員長より賞状と盾を受賞しました。また、引き続いてその場で木村さん本人が、作品の朗読を行いました。以下はその時の写真です。



また、2月10日(火)には、富山県警察本部で全国コンクールの受賞伝達式が行われ、桜沢健一本部長より改めて賞状をいただきました。以下はその時の写真です。



表題：命のはかなさ

氏名： 木村 優花

私は、今回のこの命の大切さを学ぶ教室の講演を聞くまで、自分の命や他人の命について深く考えることがほとんどありませんでした。小・中学校でも何度か命の大切さに触れる機会は設けられていたものの、事故や病気に自分さえ気を付けていれば大丈夫、というような軽い認識しか持つことが出来ませんでした。そして、そのような認識を、この機会に改めることが出来ました。

命はあっけなく消えてしまい、いつどんな瞬間に自分の世界から大切な人達が消えていくのか分からないということを知っていたつもりでした。でも、その事の恐ろしさを私はあまり理解出来ていなかったのだと思います。なぜなら、自分の世界から大切な人が消えるのは遠い先の話だと考えていたからです。しかし、別れは突然訪れる。そしてそれがいつなのか、私達には分からない。だから今をあたり前の時間だと思って生きるのはやめて、一分一秒を奇跡と思って生きようと思います。

今回、話をしてくださった講師の方は、事故の日から14～15年もの月日が経っているのにもかかわらず、深い傷を癒やされることなく持つておられるというのが初対面の私にも伝わりました。家族を事故で亡くされた方の話を聞くのは、初めてだったのですが、テレビなどで聞くのとは全く違い、リアリティが溢れていて自分の中で映像が鮮明に映し出されました。それと同時に、講師の方の家族に起こった出来事は決して他人事ではないと感じさせられました。

講師の方は、娘さんや息子さん、また講師の方と同じような境遇にあった方々に支えられ普通に生活することが出来るようになったとおっしゃられたので、それを聞いて安心したのですが、講師の方はただ単に生活を送れるようになっただけであり、夫を亡くされた悲しみから立ち直れたわけではなかったのです。人と人が支え合うことは、生きていく上でとても大切なことだと思います。しかし、どれだけ多くの人で支え合っても、大切なたった一人の人を失ったという事実は消えることはないし、悲しみを忘れ元のように生活するというのは、簡単に出来ることではないのだと思いました。

講師の方は、事故の話をするのは辛いと思われるのに、なぜ辛い過去を思い出し私達のような他人に事故の話をしてくださったのだろうか。私は、考えました。きっと、講師の方は私達に同じ思いをさせたくなかったのだと思います。一つの事故がどれだけの影響を周りに及ぼすのか、自分の家族がいなくなるということはどういうことなのか。今回話を聞いた私も、全てが分かった訳ではないのですが、話を聞く前と比べ今では命の重みとか、家族・友達・その他の人々の大切さについて深く考えるようになりました。

私は、家に帰ってこの講師の方の話を家族にしました。私のように家族や友人に講師の方の話を伝えた人は沢山いると思います。このように、講師の方から私達へ、そして私達からその周りの人達へ。講師の方の話は、伝わっていくのではないかと思います。そして、話を聞いた人たちが命のはかなさや命の重みについて深く考えるようになり、結果的には少しでも事故というものが減っていけばいいなと願わずにはいられませんでした。